

# 南十字星

発行者  
クイーンズランド  
補習授業校  
校長  
丸山吉信

## GC 運動会特集

八月八日、ゴールドコースト校の運動会が行われました。晴天に恵まれ、暑過ぎもせず、寒くもなく、絶好の運動会日和となったのは、この日を楽しみに待っていてくれた子供達の気持ちがあが天に通じてのことかもしれないかもしれません。子供たちは朝からそわそわと落ち着かない様子で、一〇時の開会を待ちました。開会式では、小一代表の二名が開会宣言を、中学三年生二名が選手宣誓を立派に行いました。準備体操を皮切りに、徒競走や玉入れなど十五種目の熱戦が繰り広げられ、とうとう最後の選手リレーまで紅白の接戦が続きました。特に、最後の男子選手リレーは圧巻で、グラウンドは子供たちの「あーか！あーか！」「しーろ！しーろ！」の大歓声に包まれました。結局、今年の運動会は、誰も予想しなかった紅白同点優勝となりました。



幼稚部 原田いな 「玉入れ」

感育成」、そして「責任感と連帯感の涵養」です。この目標に向かって、教員、保護者、児童生徒の三者が力を合わせて取り組んだ運動会となり、大人も自分のうちに連帯感涵養の喜びを感じたような運動会となりました。また、最後の閉会式では、子供たちに楽しかったかどうかと尋ねると、大きな声で「楽しかった！」と答えてくれ、ほっとしました。

準備、運営に尽力された担任、保護者、係りの生徒の皆さん、大変ありがとうございました。また、来賓としてお越し下さった GC 日本人会長、GC 日本商工会議所会頭、総領事館首席領事にも御礼申し上げます。

### 「最後の運動会」

中三 張 晟洋

先週行われた運動会の記憶はまだ新しく、少し思い出すと、脳裏にはその時の緊張感や達成感、そして喜びなどが生々しく蘇ってくる。

年に一度の補習校で行われる運動会も、僕たち中三は今年で最後を迎え、選手宣誓といった些か想像もしていなかった役割を与えられ、緊張したりもしていた。だが、今回のこの運動会で自分が一番緊張したであろうことは、最後の種目、リレーに選抜されたことだった。相手のロンタの速さは聞くまでもなく、何よりも「アンカー」という肩書が僕をプレッシャーの渦に呑み込んでいた。

運動会終盤、最後の種目のリレーが始まった。女子のリレーでは白組が勝ち、先ほどまで同点だった点数も白組が一步有利だった。男子のリレーが始まり、周りの皆が盛り上がっている中、僕は「リレーの待ち時間がキライ」ということを改めて実感していた。途中、メチャクチャ速いお父さんが相手を追い抜いたり、転んだりといったような出来事もあり、僕の緊張も少しずつ緩んでいった。そうしている間に、気が付けば、あつという間に僕たちの番

になり、赤白ほぼ同時に手渡されたバトンを手に握り、走り出していた。後になって、「惜しかったね」とか「あと少しで追い抜けてたね」などと言われはしたが、相手のロンタも僕も全力を出し切って走っていただろうし、その結果、僕が負け、ロンタが勝ったのであれば、走っていた時の状況がどうであれ、結果が変わることはない。僅差であれ、リレーで負けたことに対する悔しさはゼロとは言えないが、負けたにもかかわらず、何故かとても気持ちよかった。

その後、結果は今までには中々なかった「同点」ということになり、補習校生活最後の運動会は幕を閉じた。そして、最後になるが、今回のこの運動会は、僕のこれからの長い人生の中で決して忘れることのない、かけがえない思い出になったと、そう強く思う。



## 「最後の運動会」

中三 田底 芽

「宣誓！」まだ少しぎこちなかった私と張君の宣誓で満点の青空の下、私の最後の運動会が幕を開けました。実は、結構楽しみにしていた運動会。今年は補習校最高学年に加えて、放送係の中で一番先輩。プレッシャーを少し感じて、ドキドキしている間に、この運動会で一番嫌だった種目、一〇〇メートル走が始まりました。決して足が速い方ではないので、「みんなで仲良く腕組んで走る」というみんなで考えた作戦は、私にとつては足の遅さがみんなに気付かれない、いい作戦だと思ったのですが、運動会開始前に先生から「ちゃんと走りなさい。」と真面目に言われてしまい、あつけなく作戦は打ち砕かれてしまいました。後にも先にも引けなくなりました。私には、「もうどうなってもいい。思いつきり走れ！」と自分に言い聞かせ、「ピー」というスタートのホイッスルの音とともにゴールに飛び出して行きました。走っている間の記憶というのはあまり覚えていないのですが、代わりに、「自分の前を走っている子を抜く！」という闘争心ははつきり覚えてます。一〇〇メートル走は意外とあつと

いう間で、走り終わったときには久しぶりの運動で息も上がっていました。ゆつくり息を整えていると、女の人がこつちに駆け寄ってきて、「はい。」と銀色のシールを渡してくれました。「まさか自分がシールをもらえるなんて！」と、最初は少し驚きながら嬉しかったです。シールをもらってこんなに喜んだのは、たぶん幼稚園以来だと思えます。胸に貼った銀色にキラキラ光るシールを見ながら、「やればできるじゃん。」と思いい、少し自信がつかまりました。やる前からネガティブになつて諦めるより、とりあえず全力で思いつきりチャレンジしてみればいいんだ、と思うようになりました。補習校最後の年、まじめにちゃんと走って本当によかったと思えました。先生が走る前に言っていた、はつきりとは覚えていませんが、「まじめにやるのが美しい」というような言葉が何となくわかった気がします。



そして、運動会のメインと言えば、やはり運動会ラストの紅白対抗リレー。私はリレーには出ていませんでしたが、中一の丈君と一緒に男子リレーの実況をさせていただきました。リレースタートのホイッスルが鳴ったと同時に、運動会はずい盛り上がりを見せ、放送のテントにまで熱気が伝わってきました。私はその皆の熱気に自分の鼓動が速くなるのを感じました。丈君とマイクを交替で実況し始め、最初は二人ともできるだけ上手に平等に実況をしようと頑張つて、言葉数も少なかったのですが、バトンが次々に渡って行くにつれ、運動会もどんどん盛り上がり、熱を増して行くと、私も丈君も興奮してすごく自由に楽しく、まるで一選手になったような気分になりました。アンカーの龍太君と晟洋君にバトンが渡り、競い合ひ、ゴールを目指して思いつきり走っている姿に実況の私も興奮し、最後は立ち上がりながら、よくいるオリンピックの実況で興奮しすぎて声がり実況したのを覚えています。二人がゴールした時には、嬉しさと感動で「うわー！」と声を上げてしまいました。もうこれで運動会最後かと思う

と、少し、ほんの少し悲しい気持ちがかみ上げてきました。

赤白同点という珍しい点で私の最後の運動会は幕を閉じました。本当に楽しくて、すごく盛り上がりを見せた大成功の運動会だったと思います。係りの仕事を中学部みんなで一生涯懸命張り、団結している姿を見て、私はすごく感動しました。やはり、係りの仕事をやると運動会が一層楽しくなるな、と改めて思いました。そして、中学三年生のみんなとこの最後の運動会を迎えられて本当に良かったです。一生モノの思い出がみんなとできたとと思います。最後の運動会、悔いなしです！



## お知らせ

九月五日に文集アルバム用のクラス集合写真を撮影します。